

研修内製化の落とし穴

- 社内講師教育のご提案 -

ガソリンや米、野菜、ガス・電気代など、あらゆる分野で歴史的な物価高騰が続き、個人消費を抑制しています。当然、企業においても大きな問題です。人件費や固定費の高騰、売上が減少し資金繰りが悪化するなど、単なる一時的な問題ではなく、倒産のリスクが生じてしまっています。そして、これは社員教育にも大きな影響を及ぼしています。コスト削減のために研修の内製化を進める企業が増えたことで、社員教育の質が大きく低下する事態となっているのです。

社内講師は、自社の課題や状況を深く理解しているため、現場に即した研修を実施することが可能でしょう。しかし、その反面、社内講師が担当するデメリットも多く存在し、効果が上がらない研修を行っているケースは少なくありません。

社内講師のデメリット例
面識のある人が担当の場合、心理的距離が近く、緊張感に欠ける。
上司や役職者が担当の場合、受講者が正直な意見や感想を言えない。
自身の経験による指導が多く、受講者に受け入れられない。
トレーニングスキルを修得できていないため、説得力がない。
新しい発想よりも、今できることや、これまでのやり方が優先される。
社内にはない知識やノウハウを得ることができない。
講師が複数人いる場合、指導力にばらつきがあり、効果にムラが出る。

コスト削減のために内製化したものの、それ自体が目的となってしまう、講師の育成が不十分では元も子もありません。適切な社内講師の選定と、全面的なサポートにより、安心して研修を実施できる環境を整備することも、業績直結の研修とするためには不可欠です。弊社の研修では、実技訓練を中心とした指導スキルの強化により、講師未経験の方でも来年度の研修担当に間に合わせることが可能です。また、カリキュラムやテキストの作成といったことでもお手伝いができます。

社内講師（インストラクター）養成研修 内容例
<ul style="list-style-type: none">◆失敗する研修例◆研修成功の3大要素◆講師の心構え、マナー、講話法◆ボディランゲージ法、視覚物使用話法、レクチャーツール活用法◆インストラクション実技訓練 <p>※近年導入が増えたオンライン研修においては、下記の内容も修得可能です。 例：オンラインの特性活用法、システム操作技術、オンライン実技訓練指導法</p>

ご興味のある方は、下記リンク、またはQRコードよりお問い合わせください。

> お問い合わせはこちら

